

## 西宮市立郷土資料館ニュース 第37号

西宮市立郷土資料館 兵庫県西宮市川添町15番26号 〒662-0944  
 電話 0798-33-1298 web www.nishi.or.jp/homepage/kyodo/

## 第28回特別展示「西宮の祭礼-だんじり巡行を支える人びと-」 の開催と門戸天神社の「太鼓」について

細木ひとみ（当館嘱託）

### はじめに

西宮市立郷土資料館では、平成24年（2012）7月31日（火）から8月31日（金）まで、第28回特別展示「西宮の祭礼-だんじり巡行を支える人びと-」を開催する。本展示は、平成16年（2004）から平成23年（2011）までに行った西宮市内のだんじり巡行をともなう祭礼調査の成果として刊行した、西宮市文化財資料第56号『西宮の祭礼（1）兵庫西宮市のだんじり調査報告書』（1）をもとに、「祭礼」の昔と現在の様子を紹介し、だんじり巡行を支える人びとに関する資料を展示するものである。

### 1. 西宮市の祭礼とだんじり

まず、西宮市内のだんじり巡行をともなう祭礼とだんじりについて、紹介したい。

現在、西宮市では、福應神社、住吉神社、西宮神社、越木岩神社、公智神社、津門神社、白山姫神社、名塩八幡神社、生瀬皇太神社の9ヶ所で行っている（表1、図1）。また、今は曳き出していないが、だんじりを保有している神社が4ヶ所あり、以前行っていたことが調査でわかった神社が8ヶ所ある（表2、3）。

これらを見ると、西宮市で曳き出すものとしては「だんじり」が多く、近隣の尼崎市や芦屋市、神戸市東灘区でも多く見られるものである。また、福應神社、公智神社の名来地区や白山姫神社、岡太神社、大市八幡神社の下大市地区、門戸天神社などは担ぐ型のもので、「昇きだんじり」や「布団太鼓」、「太鼓」などと呼ばれている（2）。



図1 西宮市でだんじり巡行を行う神社の位置図（2012年6月現在）

表1 だんじりを曳き出す神社（2011年3月現在）

神社名	祭礼日	曳き出すもの	担ぎ手の中心	参考資料	備考
福應神社 (西宮市今津大東町)	7月第2土曜日・日曜日(夏祭)、10月12日・13日(秋祭)	舟だんじり、武者だんじり、布団だんじり各1台ずつ	若福会。	『武庫郡誌』、『酒都遊観記-酒都歳時記-』	夏祭も7月12日(宵宮)、13日(本宮)に行っていたが、第2土曜日、日曜日へと変更された。
住吉神社 (西宮市西波止町)	7月31日(住吉祭)	船だんじり1台	氏子と各町の子供会		平成4、5年くらいから巡行を中止していたが、平成18年から再び曳かれることになった。昭和48年製作のだんじり。
西宮神社 (西宮市社家町)	9月21日(宵宮)、22日(例祭)、23日(渡御祭)	だんじり1台	若戎会		だんじりは、昭和61年に大阪府泉大津市より購入した。
越木岩神社 (西宮市甕岩町)	だんじり巡行は9月22日、23日	だんじり2台	越木岩地車保存会、越木岩青年会など。以前は、各地区の青年団。	『夢とロマンを創るまち「越木岩」』、『だんじり幕の物語』、『だんじりが百倍楽しめる本』	上新田(上越木岩)の曳き太鼓(ふとんだんじり)、中新田(北越木岩)・下新田(南越木岩)のだんじりの3台があった。
公智神社 (西宮市山口町下山口)	10月体育の日の前日の日曜日	だんじり6台(上山口と下山口が大小各1台ずつ、中野、金仙寺)、昇きだんじり1台(名来)	各地区の自治会、消防団。以前は、各地区の青年団。	『山口村誌』、『山口町史』、『上山口区誌Ⅱ』、『西宮市山口町上山口・下山口の民俗』	10月16日に行っていたが10月10日に変更した。その後、体育の日の前日の日曜日に変更された。
津門神社 (西宮市津門西口町)	10月15日(宵宮)、16日(本宮)	だんじり1台	氏子		だんじりは、昭和40年代に氏子の宮大工が製作した。
白山姫神社 (西宮市小曽根町)	10月15日に近い土曜日、日曜日	だんじり太鼓1台	氏子会		昭和20年代まで担いでいたが、その後巡行を中止。平成18年10月から巡行を再開し曳き出した。
名塩八幡神社 (西宮市名塩)	10月第3土曜日(宵宮)、日曜日(本宮)	だんじり8台(大西町、西之町、南之町、中之町、北之町、山之町、東之町、木之元町が各1台ずつ)	各町の青年団	『摂津名所図会』、『摂陽群談』、『有馬郡誌』、『名塩史』、『なじおの年中行事』	10月19日(宵宮)、20日(本宮)に行っていたが、10月第3土曜日、日曜日に変更された。
生瀬皇太神社 (西宮市生瀬町)	10月21日(宵宮)、22日(本宮)	だんじり1台	生瀬青年團	明治3年の「地車償還金収支決算書」(浄橋寺文書)、『生瀬の歴史』、『だんじりが百倍楽しめる本』	現在の地車は、岸和田の木下工務店が製作。平成16年9月26日に入魂式が行われた。

※ただし、福應神社の秋祭は、2012年より10月第3土曜日・日曜日に変更された。また、名塩八幡神社と生瀬皇太神社の祭祀は、有馬稻荷神社(神戸市)の宮司が兼務して行っているため、名塩八幡神社と生瀬皇太神社の祭礼日が重なる日程の場合は、名塩八幡神社の祭礼日に変更あり。

表2 以前曳き出していた神社 (2011年3月現在)

神社名	祭礼日	曳き出すもの	担ぎ手の中心	参考資料	備考
甲子園八幡神社 (西宮市上甲子園)	7月22日(本祭)	だんじり1台	村の若い人	聞き取り調査	現在もだんじりを保有。
岡太神社 (西宮市小松南町)	10月11日	だんじり1台、太鼓台2台	青年団、消防団、警防団	聞き取り調査	現在もだんじり、太鼓を保有。「一時上臈」(西宮市無形民俗文化財に指定)の際に曳き出した。
大市八幡神社 (西宮市若山町)	10月14日(宵宮)、15日(本宮)	下大市太鼓1台、上大市だんじり1台	小若衆(青年団)、中老	明治25年の「昇地車購入代金賦課録」(下大市・中島家文書)、明治25年の「檀尻寄附帳」、明治28年の「檀尻前後幕寄附帳」、「檀尻賃金修繕勘定控」、明治32年の「地車蔵買求帳」(以上、上大市部落有文書)、『西宮の年中行事』、『下大市の民俗』、『下大市今昔物語』	現在も下大市の太鼓台を保有。上大市のだんじりはすでに解体している。
熊野神社 (西宮市熊野町)	10月15日	だんじり1台		聞き取り調査	40年くらい前から曳き出さなくなった。だんじりに被せるように倉庫をつくったので、外に出せない。荷物があって、だんじりの形がよくわからない。

表3 曳き出していたことがわかる神社（2011年3月現在）

神社名	祭礼日	曳き出すもの	担ぎ手の中心	参考資料	備考
上野神社 (西宮市今津 上野町)	10月13日	だんじり		聞き取り調査	立派なだんじりがあったが、戦後しばらくしてなくなったと聞いている。
巖島神社 (西宮市上甲 東園)	10月15日	だんじり		聞き取り調査	昭和25～30年頃には、例祭にだんじりを出しているのを見た。門戸との村境では互いに太鼓の打ち方の上手さを競った。
上ヶ原八幡神社 (西宮市上ヶ 原山田町)	10月15日	だんじり	青年団	聞き取り調査	昭和38～40年頃まではだんじりを出していた。昇き手が足りなくなったので中止した。
熊野神社 (西宮市高木 東町)	10月15日	太鼓(ダシ)	青年団、消防団	『西宮の年中行事』には「西(八幡神社)は神輿で東(熊野神社)は太鼓を出す。(中略)太鼓は子供がハッピを着てかつぐ」とある。	昭和50年代まで、太鼓に屋根がついた「ダシ」を出していた。宮司が記憶されているだけでも何度も修理している。
若宮八幡神社 (西宮市段上 町)	10月14日(ヨミヤ)、15日(秋祭)、16日(ゴエン)	だんじり	若中	『西宮の年中行事』には「秋祭には地車をひいた。地車はダンジリ小屋に入れてあり、10日ぐらいからだしてかざりつけをした。地車の4本のチョウサイボウに10人ずつワカナカが肩を入れ、子供が綱をひく。中年の人が世話人としてウチワをもって合図をし、太鼓と鉦をならしてひいた。各家々から御祝儀をもらい、あとでそれで御馳走を食べた。途中、地車をとめて広場で歌を歌ったり、男も化粧してニワカ(寸劇)をした。ニワカなどの練習は、ヤガク(集会場)でした」とある。	
門戸天神社 (西宮市上甲 東園)	10月15日(本宮)	太鼓	青年団と消防団	「門戸村若中廃止のこと」、明治14年の「門戸村天神社祭典につき願書」(『西宮市史』第6巻)、明治15年の「祭典太鼓かき許可証」(門戸部落有文書)	明治期～大正14年は門戸村若中組合が中心でやっていた。昭和33年まで曳き出した。
甲子園素盞鳴神社 (西宮市甲子 園町)	10月20日	布団太鼓		聞き取り調査	戦前にも太鼓の様なものがあったと聞く。戦後からはコロがついた布団太鼓があった。
鳴尾八幡神社 (西宮市上鳴 尾町)	10月20日	太鼓		聞き取り調査	

## 2. 門戸天神社の祭典と「太鼓」

『西宮の祭礼（1）兵庫県西宮市のだんじり調査報告書』を刊行した後、門戸天神社での祭典の様子や「太鼓」について詳しくお話を伺うことができた。さらに、本村幸裕氏所蔵の昭和29年から31年ごろの祭典の写真（写真1～写真7）も見せていただくことができた。そこで、次に門戸天神社の祭典について紹介したい。

門戸天神社は、西宮市上甲東園4丁目に位置し、旧門戸村の産土神である。『武庫郡誌』の「村社天神社」の項には、

門戸字天神山に在り。菅原道真を祀る。門戸村の産土神たり。創祀年曆不詳、明治六年村社に加列せらる。

祭典は十月十五日を以て之を行ふ。

と記されている神社である（3）。

### （1）資料から見る祭典

『西宮市史』第6巻にある「門戸村天神社祭典につき願書」（4）の2通のうち、1通は明治14年（1881）10月に天神社祀掌や氏子総代、戸長から武庫兔原郡長に出された願書で、

一例年之通り神祭ニ付、村内子供打寄せ来ル十五日昼間太鼓打唱（鳴）シ申度候間、此段祠掌・氏子総代連印ヲ以御願奉申上候也

と記されている。また、もう1通は、西宮警察署に出された願書で、

一来ル十五日当村々社天神社祭典ニ付、子供打寄せ昼間大鞆舁キ唱シ相祝申度候、且村社道傍辻挑（マヽ）灯式ヶ所相建申度候間、御聞届被成下度、此段祠掌・氏子総代・戸長連署ヲ以奉願上候也

と記されている。この2通の資料は、明治14年10月15日に門戸天神社の「祭典」を行いたいと願い出たものであり、門戸部落有文書には同様の資料として、明治15年と明治16年の「天神社祭典ニ付太鼓舁キ鳴し等許可願」の願書もある（5）。門戸天神社の祭典では、昼間に太鼓を舁き、打ち鳴らしながら村内を回るのが例年通りのことだというのがわかる。

そして、この頃には、15歳以上30歳以下の男子を「若中」といい、この若中が中心となって太鼓を舁き出していたというのである。

### （2）聞き取り調査からわかった祭典

平成23年5月に、松田健二氏（昭和6年生）より、昭和20年代から昭和33年までの門戸天神社の祭典と太鼓について、お話が伺えたので紹介する。



写真1 門戸若衆（昭和29年）  
長袖シャツに腰巻きを巻いている

祭典の時には「太鼓」を出す。太鼓のかぎ手（担ぎ手）は、青年団（15歳から25歳までの男子）と消防団（25歳以上の男子で希望したもの）であり、長袖のシャツにネルの腰巻きを巻き、足は地下足袋であった（写真1）。世話人は、頬被りをして、着物にネルの腰巻きでシリカギをしていた（丈の長さをまくり上げていることをシリカギをしていると言った）。かぎ手は、太鼓の前に16人、後ろに16人、左右の横に4人ずつの40人は必要であった。

10月10日に「砂持」といって青年団の人がきれいな砂を神社に持って上がった。

10月13日に青年団全員が神社に上がって、太鼓を組み立てる。祭典の時以外は、太鼓をバラして神社横の小屋に入れていた。

10月14日の朝、太鼓を神社下に降ろす。この時は、皆酔っていないので無事に階段を降りてこられた。14日を「ヨミヤ」といって、太鼓をシャリン（台車）にのせ、子供が綱を引いて、朝から夕方まで村中を回った（写真2）。シャリンは細い木を切ってきて車輪を付けたようなものなので、多くの子供がいないと引っ張れなかった。太鼓の中には、小学生と中学1年生くらいまでの男の子が4人乗り、中央の太鼓を叩く（写真3）。初めて叩く子とやったことのある子を組み合わせた組を何組か作っておいて、途中で交代する。夕方には、また神社まで太鼓を担いで持って上がり、神社前で練り回す（写真4）。青年団の20歳以下の若い子たちが、神社に布団を持って来て、社で一晩ごろ寝した。

10月15日の朝、また担いで神社下に太鼓を降ろす（写真5）。15日は「ホンミヤ」で、太鼓を担いで村中の氏子の家を1軒1軒回って御祝儀をもらう（写真6、7）。御祝儀をいただくと、太鼓を差し上げる（持ち上げる）。太鼓を下ろすときに手を離し、肩で受け止めた。昔



写真2 西国街道を子供たちが引く

(昭和29年)



写真3 乗り子の男の子たち

(昭和30年)



写真4 天神社前の太鼓（昭和30年）

は、農業をしている人が多く、天秤棒を担いでいたので体が強かったが、それでも肩が腫れていた。御祝儀と一緒に、お酒を一杯もらったりもするので、かぎ手は酔っぱらってくる。太鼓を担いでいるとき、かぎ手が押し合いをすると、負けるほうと勝つほうとが出てくる。負けると電柱にぶつかったりするので、世話人が手を貸す。夕方には、神社へ宮入し、境内で練り合う。

10月16日に青年団が集まり、太鼓を解体して倉庫に直す。

昭和33年（1958）に「ホンミヤ」の宮入で練り合ったとき、事故が起き、太鼓を出すのを2、3年中止した。その後、再び出そうという話になったが、その頃にはかぎ手が少なくなったので出せなくなった。平成7年（1995）の震災でお宮さんと倉庫と共に太鼓もつぶれてしまったので現在はない。

今まで門戸天神社の祭典については、先述した門戸部落有文書の資料でしか、知り得ることができなかった。そのため、松田氏に伺ったお話や本村氏所蔵の写真は今後貴重な資料となるであろう。

### おわりに

展示を通して、多くの方に西宮市にもだんじりをともなう祭礼があることを知ってもらいたいと思い、第28回特別展示を企画した。しかし、現在祭礼を行っている神社においても、だんじりの維持費や担ぎ手、曳き手の減少、人や車輛増加による巡行の難しさなど、祭礼継続にかかわる問題を抱えている所が多い。だんじりが巡行することの本来の意味を理解し、町全体で盛り上げていく必要があるように思われる。

さらに、以前行われていた祭礼については、まだまだ不明なことも多いので、今後も続けて調査を行い、西宮市で行われた祭礼について明らかにしていきたいと思う。



写真5 宮出しで神社の坂を降りる  
(昭和31年)



写真6 太鼓を担いで回る  
(横から・昭和30年)



写真7 太鼓を担いで回る  
(正面から・昭和30年)

## 【附記】

今回の展示は、西宮地車連絡協議会の皆様をはじめ、各神社や自治会、青年団、山口古文化保存会神楽舞曲育成会など多くの方々にご協力を賜りました。また、門戸天神社の祭典につきましては、松田健二氏、本村幸裕氏、荒木知氏に貴重な資料をご提供いただき、門戸厄神東光寺松風館の大崎正雄氏にはご教示を賜りました。ここに記して、皆様への感謝の意を表したいと思います。

そして、多くの方にご来館いただき、第28回特別展示を観覧していただきたいと思います。

## <註>

- (1) 西宮市文化財資料第56号『西宮の祭礼（1）兵庫西宮市のだんじり調査報告書』、西宮市教育委員会、平成23年3月31日刊。
- (2) 白山姫神社のだんじり太鼓は、昭和20年代までは青年団によって担がれていたが、青年団がなくなってからは中止していた。その後、平成18年に巡行を復活させた際、だんじりにコマ付きの台をつけたので、現在は担がず、子供たちがロープで曳いている。
- (3) 武庫郡教育会編纂『武庫郡誌』（復刻版）、中央印刷株式会社出版部、昭和48年6月刊。
- (4) 門戸部落有文書より。『西宮市史』第六巻資料編3、西宮市役所、昭和39年12月刊所収。
- (5) 門戸部落有文書については、門戸厄神東光寺松風館が収蔵。

## 寄贈資料一覧（平成23年3月～平成24年6月、敬称略）

阪神電気鉄道武庫川線ほか写真データ（増田満）、瓦木村解村記念の盆（梶間栄一）、愛宕神社御祈禱札（細木ひとみ）、西宮町伊勢講のわりこ・旗（井上収次）、ポスター<園田競馬・甲子園競輪>・パンフレット<夏の兵庫県・六甲摩耶回遊（阪急電車）・仁川ピクニックセンター（阪急電車）>・定期券<梅田-西宮北口・尼崎-西宮>・スタンプ<甲陽園>・絵はがき<神呪寺・香爐園海水浴場 浴場其の二・摂津西の宮浜網引・香爐園浜海水浴場 東望楼ヨリ見タル全景・香爐園内静ナル曙池・多聞酒造株式会社 暑中見舞い・甲陽園・西宮神社・甲陽丸長 東離座敷櫻ノ間 右亭座敷桐ノ間・六甲苦楽園ラヂウム温泉休憩室・ポートピア博覧会・西宮の四季・忠魂碑竣成記念（帝国在郷軍人会西宮連合分会）>・大東亜建設博覧会招待券・志那事变戦捷博覧会入場券・武庫地方郷土史料目録・西宮花街住宅組合出資券・最新兵庫県交通地図（田中千尋）、雛人形一式（77点）（坂元綾子）、一丁掛・二丁掛・三丁掛・からすき・まぐわ（宮本治）

ご寄贈ありがとうございました。

## 目次 CONTENTS

第28回特別展示「西宮の祭礼-だんじり巡行を支える人びと-」の開催と門戸天神社の「太鼓」について（細木ひとみ）…1

寄贈資料一覧…8